

令和6年度(2024年度) 年間授業計画表

学年	1	コース	総合進学	選択形態	必須	科目	現代の国語	単位	3
学習目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
使用教科書	高等学校 現代の国語 (数研出版)	副教材	論理エンジンOS1~2(水王舎)				予定時間数	105	
単元と内容									
1学期	一文の構造	論理エンジンOS1 一文の構造を知る。要点の捉え方を学び、文章読解の基礎を身に付ける。							
	文のつながり	論理エンジンOS1 言葉のつながり、文の成り立ち、文の要点と指示語を学ぶ。							
	文章の構造	『論理的ということ』							
	一対比構造一	『水の東西』							
	一一般論と主張一	『「大人になる」ための条件』							
2学期	一具体と抽象一	『ものことば』							
	一比較する一	『政治的思考』							
	文の作成	論理エンジンOS1 助詞・助動詞の働き、文の作成I							
	視野を広げる	『他者を理解するということ』・ズームアップ							
	思考を深める	『時を編む人間』・ズームアップ							
3学期	文章の構造	論理エンジンOS2							
	表現の実践	文章構造を理解する・要約する							
	実用の文章6	課題を発見し解決策を発表する〈SDGs解説文〉							
評価									
評価の観点		評価の趣旨				評価対象			
						1学期末	2学期末	学年末	
①	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。				○	○	○	
②	思考力・判断力・表現力	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。				○	○	○	
③	主体的に学びに向かう態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。				○	○	○	
評価方法	① (全体の40%)		② (全体の40%)			③ (全体の20%)			
	定期考査40%		定期考査40%			定期考査40%			
	レポート10%		レポート10%			レポート10%			
	相互評価20%		相互評価20%			相互評価20%			
	各種提出30%		各種提出20%			各種提出30%			
		グループ活動10%			グループ活動10%				

令和6年度(2024年度) 年間授業計画表

学年	1	コース	総合進学	選択形態	必須	科目	言語文化	単位	2
学習目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。								
使用教科書	『新編 言語文化』（教研出版）		副教材			予定時間数	70	実施時間数	
単元と内容									
1学期	言語文化と古文		古文の学習						
	古文に親しもう		古典文法（品詞の種類・動詞の活用）						
	説話集を読む楽しみ		兎のそら寝						
	宇治拾遺物語		検非違使忠明						
	言語文化と漢文		訓読のきまり						
			格言						
2学期	言語文化と近現代								
	近代小説		羅生門						
	言語文化と漢文		故事成語を学ぶ						
	故事と成語		漁夫の利						
			虎の威を借る狐						
	言語文化と古文		古文のチェックポイント（動詞・形容詞・形容動詞）						
3学期	言語文化と古文		伊勢物語						
	言語文化と漢文		中国の漢詩						
	言語文化と近現代		沖縄の手紙から						
評価									
評価の観点			評価の趣旨			評価対象			
						1学期末	2学期末	学年末	
①	知識・技能		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。			○	○	○	
②	思考力・判断力・表現力		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。			○	○	○	
③	主体的に学びに向かう態度		言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。			○	○	○	
評価方法例	①（全体の40%）			②（全体の40%）			③（全体の20%）		
	定期考査40%			定期考査40%			定期考査40%		
	レポート10%			レポート10%			小テスト10%		
	相互評価20%			各種発表・まとめ20%			各種発表・まとめ10%		
	各種提出30%			グループ活動20%			グループ活動20%		
				口頭試問10%			各種提出20%		